

## 第5回函館市観光振興財源検討委員会 議事録（概要）

### ■ 開催日時

令和元年12月16日（月）18：00から18：30まで

### ■ 開催場所

市役所本庁舎8階第2会議室

### ■ 出席委員・オブザーバー

奥平委員長，大橋副委員長，高地委員，辻委員，寺井委員，布谷委員，渡部委員，川崎オブザーバー，遠藤オブザーバー

### ■ 欠席委員

酒井委員

### ■ 傍聴等

NHK，北海道新聞社，函館新聞社

### ■ 議題

- (1) 第4回検討委員会議事録の承認について
- (2) 提言書（案）について
- (3) その他

### 【会議の概要等】

1 開会

2 第4回検討委員会  
議事録の承認につ  
いて

奥平委員長

第4回検討委員会の議事録については，配付のとおりである。承認いただきたいが，いかがか。

(委員同意)

3 資料1 第4回函  
館市観光振興財源検  
討委員会議事概要

奥平委員長

前回の確認として、「パブリックコメントおよび意見交換会実施結果について」であるが、パブリックコメントについては、委員会としての回答を付した取りまとめ案について、第4回の検討委員会において皆様に了承いただき、11月25日から函館市のホームページ内において掲載している。

「提言の取りまとめについて」は、宿泊税の導入に向けた提言とし、導入にあたって留意すべき点として、これまでに出た意見を付言として取りまとめ第5回の検討委員会に提言書(案)を提示するということとなった。

4 資料2 観光の振  
興に関する施策を実  
施するための財源の  
在り方 -提言-  
(案)見え消し版

奥平委員長

本日は、提言書(案)について、最終的な確認をいただきたいと考えている。皆様には事前に配布し、既に確認していると思うが、私から改めて簡単に説明する。

2ページから5ページについては、  
函館市の観光施策の現状と課題、財政状況を踏まえ今後、交流人口を拡大し、地域経済の活性化を図るためには、これまで以上に観光施策を充実させていかなければならない。そのための自主財源が必要であるということで本検討委員会の意見が一致したことを記載している。

6ページから7ページについては、

財源確保策としては、他都市の先行事例などから課税自主権の活用が望ましいと考えられるが、観光振興によってメリットがあるのは、観光業界全体であり、宿泊行為に絞らず、幅広く観光客の行為・行動に薄く課税してはどうか、という意見が出たことから、それぞれの場合についても検討を行ったこと、観光施設の利用、飲食、物販等に対する課税については、対象施設の線引きや市民への課税という観点から困難ということ、また、宿泊行為への課税については、他の案と比較して、制度的に簡素であり、徴収に係る費用も過大とならず、宿泊客の多くが来函客であり、観光振興を中心とした行政サービスの恩恵を受けている者がその費用を応益的に担う「受益と負担」の観点から、結論として、宿泊行為に課税する宿泊税が望ましい、との検討結果になったことを記載している。

8ページ目から9ページ目については、財源確保の必要性として、現行施策に加えてさらなる観光振興施策の展開に必要となる自主財源の確保が必要ということ、財源確保策の検討として、宿泊行為に課税する宿泊税が望ましいということ、これを提言に取りまとめたこと、しかしながら、本検討委員会やパブリックコメント、意見交換会で宿泊事業者等から不安の声が出ていることから、今後、函館市で制度設計をするうえで参考としてもらうためなるべく宿泊事業者に負担のない簡素な制度設計を図ること、北海道が導入することとなった場合、調整を行うこと等を付言として記載している。

また、事前に皆様から意見を受け、修正を行った箇所は、朱書きのとおりである。

説明は以上だが、何か確認する点等はあるか。

なければ、こちらの提言書（案）を、当検討委員会の提言書としてよろしいか。

(委員同意)

ありがとうございます。それでは、これを提言書として市長に手交することとする。

## 5 その他

奥平委員長

議論は終わったが、その他要望等はあるか。

川崎オブザーバー

函館湯の川温泉旅館協同組合からの要望は、宿泊税を徴収する場合、定額制と定率制があるが、定額制にするのであれば、免税点を設けてもらいたいということと、入湯税との兼ね合いをどうするか、ということである。

奥平委員長

入湯税については、議論でも出てきたので、函館市で検討することになると思う。  
事務局から何かあるか。

小林財務部長

入湯税については、検討していかなければならないと思っている。  
今後、定額制にするか、定率制にするか、提言を受けて庁内で議論するし、免税点についても、様々な方の意見を踏まえながら、制度設計していきたいと思っている。

奥平委員長

ほかに何かありますか。

遠藤オブザーバー

使途について、より効果的な形で進めるよう協議を図っていきたい。また、北海道との連携が大事だと思うので、引き続き調整をお願いしたい。

柳谷観光部長

効果的な施策になるように観光事業者の皆様からも意見を聞きながら進めていきたい。

## 6 委員長挨拶

奥平委員長

最後に、委員、オブザーバー、パブリックコメント

や意見交換会に協力いただいた皆様に御礼を申し上げます。

この会議は、非常に丁寧に議論をできたと思う。いろいろな問題点がある中、見えない部分をどう見えるようにしていくのか、その手順をしっかりと、この5回の会議で踏んでいったと思う。

ある程度、皆さんが納得できるような提言書までいくことができたので、提言書に基づいて、制度設計の部分については、事務局にお願いをしていくことになる。これについては、関係の方々への十分な説明、十分な情報収集を含めて、よりよい制度設計を行っていただければというふうに思っているので、よろしく願いしたい。

私からは以上である。

それでは、事務局にお返しする。

清藤税務室長

本日の議事録については、後日、各委員に確認し、ホームページで公表する。

提言書については、後日、委員長から市長に手交していただく。

最後に、事務局を代表して財務部長から、挨拶申し上げます。

7 財務部長挨拶

(小林財務部長挨拶)

8 閉会

清藤税務室長

以上で函館市観光振興財源検討委員会を閉会する。  
本日まで、どうもありがとうございました。